

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設維持補修事業	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	2	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	中部小学校・東部小学校・西部小学校のトイレ改修工事、第二中学校の外壁屋上改修工事の際に建具等附帯設備の改修を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	小学校のトイレ改修工事、第二中学校の外壁屋上改修工事の際に建具等附帯設備の改修を行う。
②①に基づく取り組み結果	中部小学校・東部小学校・西部小学校のトイレ改修工事の際に老朽化した建具の改修を併せて行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校校舎・体育館	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	老朽化した施設、設備等について、計画的に改修を行い、学習環境の向上を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の建設時期が一定期間に集中していることから、全体的に老朽化が進んでいる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	予定した事業を全て計画通りに完了し、学習環境の向上を図った。					
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	算定根拠
	i	校舎工事に関する生徒/全生徒	18	13	8%	実施校生徒数/全生徒数
	ii	体育館工事に関する生徒/全生徒	0	0	0%	実施校生徒数/全生徒数
	iii	その他工事に関する生徒/全生徒	13	13	25%	実施校生徒数/全生徒数
③事務事業のコスト		平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算
事業費(千円)		186,175	231,536	金額(千円)	内容	283,585
国支出金(千円)			38,909	146,540	中部小トイレ改修工事	
県支出金(千円)				35,727	東部小トイレ改修工事	
市債その他(千円)		140,800	166,000	34,387	西部小トイレ改修工事	200,600
一般財源(千円)		45,375	26,627			82,985

IV 評価・検討

①課題	施設の老朽化に伴い、事業の進捗ペースを速める必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	施設の老朽化に伴い、改修ペースを前倒しする必要がある。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	中部小トイレ改修工事、東部小トイレ改修工事、西部小トイレ改修工事 ほか	平成29年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。その他改修工事の設計を行った。	704,665	704,665	当初	176,539	H28からの繰越	146,540
				H28⇒29繰越	147,070		
③達成状況	未完了			補正	381,056	現年分	84,996
④未完了・非着手の理由	国の補正予算に伴い、3月補正予算で追加した北小・初小・道小トイレ改修工事等を繰越した為。			流用・充当			
		平成30年度への繰越額(単位:千円)				460,113	

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	義務教育施設校舎増設事業	会計	款	項	目	多額 繰越
		一般	10	2	1	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	教育総務課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	後藤 由美			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	五本松小学校の児童数増加に対応した教室数を確保するため、新たな校舎(普通教室棟・特別教室棟)を整備するにあたり、併せて校庭等の外構整備工事を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	(事業終了)
②①に基づく取り組み結果	新たな校舎の整備を行うとともに、校庭等の外構整備も実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	小中学校校舎	意図(対象をどうするのか)	学習環境の向上を図る
②事務事業の概要	五本松小学校の児童数増加に対応した教室数を確保するため、新たな校舎を整備する。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	新鎌ヶ谷周辺地区への人口流入が続いており、平成34年度においては4教室の不足が見込まれていることから、これに対応するための校舎の整備は急務である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	普通教室(4教室)及び特別教室(図書室・音楽室)の整備工事を完了した。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	増設工事に関する生徒/全生徒		8	8%	実施校生徒数/全生徒数
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	9,127	249,961	金額(千円)	内容	0	
国支出金(千円)		94,476	229,982	五本松小学校舎増設工事		
県支出金(千円)			11,448	五本松小学校用備品		
市債その他(千円)	6,400	117,600	7,992	五本松小工事監理委託		
一般財源(千円)	2,727	37,885				

IV 評価・検討

①課題	五本松小学校の児童数増加に対応した教室数を確保するため、速やかな対応が求められている。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	五本松小学校において新たな校舎【普通教室棟(4教室)、特別教室棟(図書室・音楽室)】の整備工事が完了した。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	五本松小学校校舎増設工事	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	計画どおり実施した。	307,685	307,685	当初	307,685	H28からの繰越	0	
				H28⇒29繰越				
③達成状況	完了			補正		249,961	現年分	249,961
④未完了・非着手の理由		平成30年度への繰越額(単位:千円)				0		

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	学校運営に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	関根 延年			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	学校用務員の退職者が出た学校について、新たな人員配置に代わり、民間委託により人件費の抑制を図る。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	学校および委託業者と連携をとり、円滑な学校運営を図る。
②①に基づく取り組み結果	学校施設環境整備員について民間委託業者と調整を行い、市内小中学校11校について委託を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	学校用務員の退職者	意図(対象をどうするのか)	民間委託により人員補充を行う
②事務事業の概要	学校用務員の退職者が出た学校について、新たな人員配置に代わり、民間委託により人員補充を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	平成15年度より3校の委託を開始し、平成29年度は11校について委託を行った。現在委託を行っていない学校の委託についても、引き続き学校および委託業者と調整を行う。(北部小:36年度末、中小:48年度末、道野辺小:29年度末 退職予定)			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	平成29年度末に退職となる学校施設環境整備員(道野辺小)について委託業者と調整を行い、平成30年度より委託を行うことができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	民間委託とした学校数	11	11	11	校	業務取得
	ii						
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	21,685	21,914	金額(千円)	内容	21,573		
国支出金(千円)			18,135	学校施設環境整備員派遣委託			
県支出金(千円)							
市債その他(千円)							
一般財源(千円)	21,685	21,914			21573		

IV 評価・検討

①課題	市職員の用務員が配置されている学校と業務内容に差が生じないように、学校および業者との調整が必要となる。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	2普通	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	人件費の削減を図るため、継続的に行う事業であり、今後も民間委託を推進する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績	0	当初		0	H28からの繰越
		H28⇒29繰越			
③達成状況		補正			現年分
④未完了・非着手の理由			流用・充当		
	平成30年度への繰越額(単位:千円)				

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	少人数教育推進に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	10	1	3	
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柳 昌孝			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	少人数指導の質の向上を図るため、きらり先生研修会のみならず各種研修会でも効果的な実施について指導支援していく。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	少人数指導の質の向上を図るため、市教育委員会指導訪問および要請訪問時に授業研究、協議会を実施し、きらり先生研修会を含め、効果的な実践について指導支援していく。
②①に基づく取り組み結果	研修会を2回実施し、少人数指導の効果的な学習形態の在り方の研修や情報交換を行った。指導計画、指導報告を精査し、授業改善に繋げる。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の児童生徒	意図(対象をどうするのか)	児童生徒にきめ細やかな学習を行うとともに、学校の活性化を図る。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ少人数教育指導教員(きらり先生)を配置し、きめ細かな学習指導を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	児童生徒、保護者、教職員は少人数指導教員の導入に好感を持っており、議会においても少人数指導教育の推進に好意的である。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	少人数指導教員(きらり先生)の配置により、各校チーム・ティーチングや少人数指導が可能となり、児童生徒の学習意欲や基礎的な学力の向上を図る等、きめ細かな指導をすることが出来た。児童生徒、教職員、保護者からもよい評価を得ることができ、学校の活性化を図ることができた。						
②成果を表す指標	指標名称		平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i	きらり先生配置数	14	14	14	人	業務取得
	ii	きらり先生授業時間数	9,800	9,800	9,800	時間	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算		
事業費(千円)	23,729	24,525	金額(千円)		内容	27,260	
	国支出金(千円)		24,040		少人数指導教員		
	県支出金(千円)		481		校外学習引率旅費		
	市債その他(千円)		4		校外学習引率入場料		
	一般財源(千円)	23,729	24,525			27,260	

IV 評価・検討

①課題	効果的な少人数指導については日々授業改善を図っていく必要がある。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	学力向上のためにもきめ細やかな指導を行うことは重要であり、効果的な実施がなされているが、さらに指導方法等について向上を図っていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	平成29年度事業費の状況(単位:千円)			
	計画事業費	予算額		決算額
②計画に対する事業実績	0	当初		0
		H28⇒29繰越		
③達成状況		補正		現年分
④未完了・非着手の理由	流用・充当			
	平成30年度への繰越額(単位:千円)			

平成30年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	特別支援教育推進事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	1	3	○
政策	13人間性豊かな子どもの育成環境をつくります	担当課室	学校教育課			
施策	132生きる力を育てる義務教育の充実	担当課室長	柳 昌孝			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修と、心理発達相談員による迅速かつ専門的な指導を行う。	③平成30年度に取り組む改革・改善内容	特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)の研修の充実と、心理発達相談員による迅速かつ専門的な指導・助言を行う。
②①に基づく取り組み結果	年4回の特別支援教育推進指導教員の研修会にて事例報告やグループ協議、情報交換を積極的に取り入れた。心理発達相談員による巡回相談を市内全14校で複数回実施した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	特別支援教育が必要と思われる市内児童生徒	意図(対象をどうするのか)	特別支援教育が必要と思われる児童生徒個々のニーズに応じたきめ細かな指導を行う。
②事務事業の概要	市内小中学校に1名ずつ(大規模校2名)ずつ特別支援教育推進指導教員(ほほえみ先生)を配置し、きめ細かな学習指導・学校生活支援を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	特別な支援の必要な児童生徒は年々増加傾向にある。インクルーシブ教育システムの構築に向け、多様化する個々のニーズに応じた専門的な指導やきめ細やかな支援体制づくりがさらに求められる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成29年度の事業の成果	一人一人の児童生徒のニーズにあわせて、特別支援教育のねらいを明確にし、効果的な学習形態で、きめ細かな指導を行うことができた。このような中で児童生徒は落ち着いて学習に取り組むことができるようになり、学び方や友達との関わりも好転するなど、学習の成果も上がってきた。					
②成果を表す指標	指標名称	平成27年度	平成28年度	平成29年度	単位	算定根拠
	i 該当児童生徒数	176	189	172	人	業務取得
	ii 特別支援を受けている児童生徒数の割合 該当児童生徒数/必要児童生徒数	34	31	27	%	業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成28年度決算	平成29年度決算	平成29年度決算(事業費)の主な内訳		平成30年度予算	
事業費(千円)	30,821	33,109	金額(千円)	内容	34,667	
国支出金(千円)			32,624	特別指導教育推		
県支出金(千円)			482	校外学習引率旅		
市債その他(千円)			2	校外学習入場料		
一般財源(千円)	30,821	33,109			34,667	

IV 評価・検討

①課題	対象となる児童生徒一人一人の多様なニーズに応じたきめ細やかな支援・指導のための時間の確保が課題である。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	特別な支援を要する児童生徒の増加と個々の特性に応じた教育的ニーズの高まりにより、保護者の期待と信頼が大きいため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成29年度の計画	研修及び巡回相談の充実	平成29年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	事例報告と情報交換会の実施	33,109	35,507	当初	35,507	33,109	H28からの繰越	
				H28⇒29繰越				
③達成状況	完了			補正			現年分	33,109
④未完了・非着手の理由		平成30年度への繰越額(単位:千円)						